

発行者

兵庫県立総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション中央病院
〒651-2181 神戸市西区曙町1070
TEL (078) 927-2727
FAX (078) 925-9203

さんぽみち



新年のごあいさつ



リハビリテーション中央病院
院長 井口 哲弘

あけましておめでとうございます。健やかな新年をお迎えになりましたこととお喜び申し上げます。近年の医療制度はめまぐるしく変わり、昨年4月の改正でもリハビリ日数の制限が行われ、全国的に問題となりました。

私たちは医療制度がどう変わろうと患者様にとって大切なことは変わり無いという信念のもと、「どうしたら患者様に満足してもらえる医療やリハビリテーションを行うことができるか」、「いかに合併症を起こさず安全に配慮して病院の質を高めるか」について取り組んできました。

2、3例を挙げますと、まず患者様の声をもっと病院の改善に生かさなければという思いから、今までの「患者投書箱」を「(患者様からの) ハートメッセージ」に変更し、必ずその部門の責任者が回答するようにしました。その結果、今まで以上に患者様からの声が届くようになり、まだまだ至らぬ点やご要望があっても不可能なこともあります。患者様から感謝のメッセージも見るようになりました。2つ目は当院ではからだの不自由な患者様が多いにもかかわらず、予約の変更や受付が電話ではできないという状態でした。これはおかしいのでは？という声があがり、診療部や看護部、医事課など各部署が協力してできるように変更しました、現在では

月に180～200件が電話で診察の予約や変更されています。いろいろと難しい面もあるけれど、少しでも患者様のためになればという職員の気持ちが実現させました。

さらに、昨年4月には院内の改善に取り組む委員会を改組し、患者様により良い医療や安全を提供する体制を強化しました。今年も職員が一体となって改革に努めたいと思います。

よろしくご協力のほどをお願い申し上げます。



兵庫県立リハビリテーション中央病院
副院長 津村 暢宏

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は病院運営にご理解とご協力を賜りありがとうございます。さて、昨年当院で導入された新しい制度の一つに外来再診予約制度があります。今までは外来の再診予約が受診した時にしかできず皆様にご不便をおかけしておりました。しかし、昨年5月より外来受診の電話による予約制度が実現し、電話で外来受診の予約や変更ができるようになりご利用いただいております。まだご存知でない方もおられると思いますのでどうぞ有効にご活用ください。今後さらに社会のニーズに応えることのできる良質な医療を提供していきたいと思っておりますので、今年もよろしくお願い申し上げます。

「亥年と健康祈願」

兵庫県立リハビリテーション中央病院
副院長 加藤 順一

新年あけましておめでとうございます。

皆さんは、亥年のイノシシといえば何を連想されるでしょう。イノシシと足腰の健康守り神についてのお話をご存知ですか？イノシシを狛犬とする護王神社（京都）では、古書の日本後記によると和氣清麻呂（わけのきよまる）公が京より九州へ出向いた時に守護したのがイノシシであり、その際に足萎え（あしなえ）で難儀していた清麻呂公の「足の病」が治ったという伝説があります。境内には「足萎難儀回復」を祈願する神標石があり、足腰の健康保持や病気の回復を祈願する人があつと絶えないそうです。蛇足ですが、和氣清麻呂公の姉の広虫姫（ひろむしひめ）は、奈良時代に日本で初めて孤児養育事業を展開し慈愛心に満ちた、今で言う社会福祉事業の魁といえます。

皆様とともにより良いリハビリ病院をめざしてその一翼を担いたいと思います。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

兵庫県立リハビリテーション中央病院
看護部 部長 笹山 美代子

あけましておめでとうございます。

2007年の幕開けです。激動が続く医療・福祉・保健情勢の嵐は、今年もきっと鎮まることはないでしょう。＜リハビリテーション中央病院丸＞はこの嵐をチャンスと捉え、大きく帆を張り、井口船長の号令の元に力を合わせて突き進んでいるところです。多数の乗組員を抱える看護部としても、ひとり一人が病院理念・看護部理念をこころに刻み、病気をもったお客様（患者様）の安全・安心・満足の得られる航海にすべく頑張っていく所存です。けれどもこれは、一緒に帆を張る診療部はじめ他の乗組員のみなさんとの良きコラボレーション作業が無ければ実現できません。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

兵庫県立リハビリテーション中央病院
リハビリ療法部 部長 中野 恭一

新年あけましておめでとうございます。

リハビリ療法部（理学療法科＜PT＞33名、作業療法科＜OT＞22名、言語聴覚科＜ST＞9名、臨床心理科＜CP＞2名、音楽療法科＜MT＞4名ならびに受付事務2名）を代表してご挨拶申し上げます。

平成18年は、未曾有の診療報酬改定がありました。中でもリハビリテーションの「実施期間」を決められたことはクライアント（患者様・利用者様・御家族様）の皆様にとりましても不安を感じられたことと存じます。リハ・プログラムを処方する医師も、それを実行するセラピストも苦渋を強いられることとなりました。本年は、必要な方に必要なだけ可能な限り工夫して効率よくリハを提供して参りたいと考えております。

暗雲を払いリハの分野におきまして明るい年でありますよう祈念しております。

「病院における安全を考えるシンポジウム」を開催して

平成18年10月末に「第1回病院における安全を考えるシンポジウム」が院内で開催されました。約140名の職員の参加があり、盛況の内に会を終えることができました。

昨今医療事故のニュースが後を絶ちませんが、当院でも一般病院に比べ大事故は少ないものの小さな医療事故、医療事故につながる可能性のあるインシデントは多々認められます。特に当院では対象疾患の関係上、転倒転落が最も多く認められます。骨折等の医療事故に至る例は年間数例程度ですがこれをいかに未然に防ぎ、仮に起こっても患者さんに危害がないようにするということが最大の課題と考えています。

今回のシンポジウムでは「転倒転落」をテーマに ①病院は安全か？医療安全の取り組みはなぜ必要か？ ②人はなぜころぶ？安全な転び方ってあるの？ ③転倒・転落ヒヤリハット・インシデントレポートの分析 ④転倒・転落、現場の声と対策（療法の現場から） ⑤転倒・転落、現場の声と対策（看護の現場から）の5つの基調報告ののち、危機管理の体制や問題点について総合討論が行われました。当院における転倒転落の特徴として高次脳機能障害が関与している場合が多く、高次脳機能障害のある患者さんの転倒予防には転倒予防機器の適切な使用、職員間の情報伝達、注意深い介護監視のためのマンパワー等が必要であるが早朝等のマンパワーの少ない時間帯に現医療体制の範囲内でどのように転倒を防いでいくかが今後の課題であると再認識しました。

当院ではこのようなシンポジウム形式は初めての試みでしたが、今後も医療水準の向上のためにこのような院内安全対策に関するシンポジウムを計画しております。



外来看護相談室「さくらルーム」のご案内

「さくらルーム」では、患者様とご家族が安心して通院および家庭での生活が行えるよう、保健師・外来看護師がお手伝いさせていただいています。

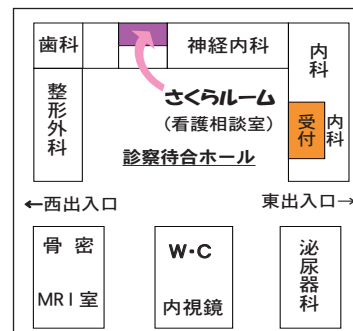
＊ご相談の内容（こんなご相談があればお申し出ください）

- ①糖尿病の方の血糖測定、インスリン自己注射。
- ②リウマチの方のリウマチ治療薬自己注射（エンブレルなど）
- ③自己導尿、カテーテルの使用方法。
- ④褥瘡（床ずれ）の予防や処置方法、予防用具の紹介。
- ⑤介護や日常生活のご相談。
- ⑥医療・看護処置の仕方や用具の購入についてのご相談。

＊ご利用の仕方・時間

- ①病院1階外来の「内科受付」にお申し出ください。
- ②月曜日～金曜日9時～16時（土日祝日、病院の休日は除きます）
- ③ご相談の内容により、以下の曜日になります。

- ＊リウマチに関するご相談……………火・水・金
- ＊導尿・カテーテルに関するご相談 ……月～木
- ＊其他のご相談……………月～金



患者・家族様向け教室のご案内

◆生活習慣病を学ぶ会◆ 14時～15時 病院2階研修室

- 1月17日 1) - ?? こんなときどうする -
- 2) 正しいお薬の飲み方について
- 3) 調子の悪いときの対処方法（シックディケア）

◎今年もがんばろう！！

“黄色いピアノ” 受贈決定

女性の地位向上のために働く世界的な奉仕活動、国際ゾントの活動を行う「フェニックス神戸ゾントクラブ（会長 芳賀 順子 様）」の皆様が、クラブ創設10年にあたって、クラブメンバーをはじめ多くの県民の皆様の温かい善意を基に、黄色いグランドピアノを当院にご寄贈いただくこととなりました。1階外来ロビーに設置し、ロビーコンサートなどに利用させていただきます。

この“黄色いピアノ”は、阪神・淡路大震災をきっかけに、「黄色いピアノをおくる会（代表世話人 喜多内十三造様）」の提唱で造られました。今回は、「フェニックス神戸ゾントクラブ」の皆様が、幸福を招く色“黄色いピアノ”を“心のかけ橋”として病院や施設に贈り、音楽を通じて心の交流を図ろうとする“黄色いピアノ”運動に呼応し、全国で6台目の“黄色いピアノ”としてご寄贈いただくものです。

記念ロビーコンサート開催！！

“黄色いピアノ”をご寄贈いただくにあたって、受贈式と記念ロビーコンサートを次のとおり開催いたしますので、入院、外来の患者様もぜひご参加ください。

と き 平成19年2月16日（金）午後1時30分～3時
と ころ 中央病院1階外来ロビー

声 楽《ソプラノ》田中 潤子氏

神戸女学院大学卒業、同大学研究生修了。リサイタルの他、オペラでは「椿姫」「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」「フィガロの結婚」等で主役を演じ、また「マタイ受難曲」「メサイア」「第九」等のソリストとしても活躍。現在、神戸女学院大学、同志社女子大学講師。フェニックス神戸ゾントクラブメンバー。

ピアノ演奏 小椋 由美子氏

相愛女子大学音楽学部卒業。91年度文化庁在外派遣研修員として渡米。ジュリアード音楽院でニューヨークグランドオペラの音楽監督V.Lセルヴァ教授にコレペティとしての才能を認められ、カーネギーリサイタルホールでマダムバタフライ全日演奏でニューヨークデビュー。セントラルパーク野外オペラの制作に加わる。オペラ全曲レパートリーは30曲以上に及び、84～85年度NHKテレビ「ウィークエンドぎんぎ」にレギュラーピアニストとして出演、テーマ音楽作曲も手掛ける。相愛大学音楽部講師。

＊詩人である黄色いピアノをおくる会代表世話人 喜多内十三造様の詩の朗読も予定しています。

「自立生活訓練センター通所部開設にあたって」

総合リハビリテーションセンター
自立生活訓練課

今年度7月1日より、地域支援の一環として自立生活訓練センター通所部が開設となりました。

入所当初一ヶ月間は、基本利用プログラム（体力・機能訓練・日常生活動作向上コース）を体験頂いた後、障害や要望に即した4コース（自動車運転習熟コース、情報・学習・就学コース、スポーツレクリエーションコース、家事動作向上コース）の個別プログラム作成へと繋げています。その他の利用として家庭復帰された退所者の方の機能回復訓練や脳血管障害の方の脳活性化を目的としたグループワークも実施しています。

今後は、定期的に訓練状況の見極め等の聞き取りも行い、利用者ひとり一人のニーズに即した、質の高い、きめ細やかなサービス提供に努めていきたいと思っております。

障害者自立支援法の新体系では、日中活動として位置付けられ、現在のところは機能訓練へと移行する予定です。